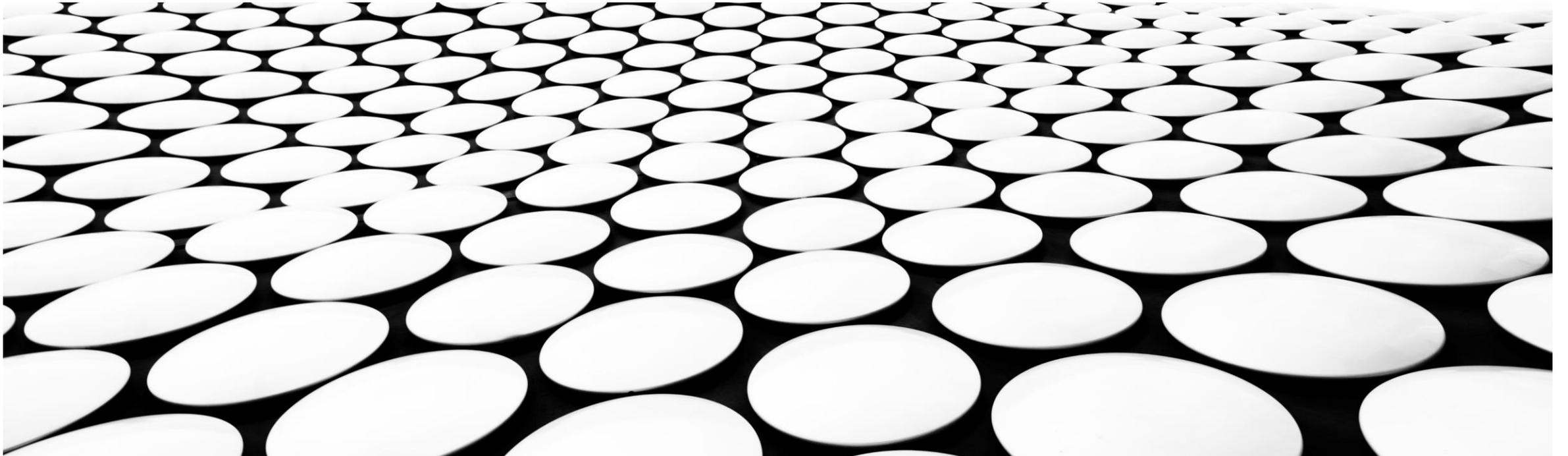


# 沖縄こども在宅研究会 2020年度2月

## ☆呼吸障害があるこども達への呼吸理学療法☆

座長：ていんさぐの会副会長 當間 隆也 （わんぱくクリニック副院長）

ていんさぐの会 役員 宮城 大雅 （沖縄南部療育医療センター）



# みなさん、はじめまして！！



在宅で医療的ケアを必要とするこどもたちへの医療機器や保健・福祉・教育情報の提供および生活支援

小児在宅医療基金

ていんさぐの会



☆ 「ていんさぐの会」 会長 富名腰 義裕

在宅医療（特に人工呼吸器）を必要とするこども達が「輝きながら今を生きる」ことを応援するために、**1993年**に結成

目的：**障がいをもったこども達が地域で暮らしていくために  
当事者や多職種の視点から課題を見つけ、共にアプローチしていく共生社会の創造**

参加者：**医師、看護師、保健師、セラピスト、薬剤師、家族の方々**  
また、地域の方達に私たちの活動は支えられております。

活動内容：**医療機器の無料貸出し、サマーキャンプの開催、  
沖縄こども在宅研究会、ボランティア養成講座**

# 今回の勉強会開催の必要性①

- およそ **2** 万人：全国の医療的ケア児数

→ **その約20%**が人工呼吸器装着

【リハビリ施設に通う子供たちの中で】

- **73.2%**：吸引が必要な子供たち、**53.7%**：何かしらの人工呼吸器管理が必要な子供たち

→ 全体的に呼吸管理が必要な子供たちが**増加**していると思われるが、、、！！！！

- **57.1%**：小児病院呼吸リハビリ、**15.8%**：療育病院呼吸リハビリ、

- **27.9%**：在宅呼吸リハビリ

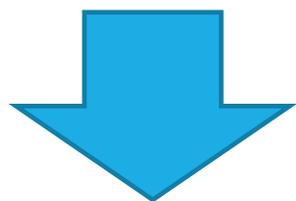
→ 急性期と比較して慢性期で行われている呼吸リハビリは**少ない**のが現状。。。



(平成30年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究(田村翔)」の協力のもと障害福祉課障害児・発達障害者支援室で作成)

## 今回の勉強会開催の必要性②

- ◎小児理学療法自体がまだ発展途上の分野でもあり、  
今後のデータ蓄積・発展が期待されている。
- ◎呼吸理学療法は急性期では焦点が当たりやすいが、  
慢性期ではエビデンスの蓄積が少ない。
- ◎WHO：日本は人工呼吸器管理されている方の在宅整備がされていないと指摘。  
→呼吸管理が必要とするこども達が増加しているが、なかなか環境がついてこない。  
しかし、呼吸管理ひとつで在宅QOLを変化するのを経験してきました。



在宅生活を充実させるためにも  
今、呼吸療法が必要とされ始めている。



# 呼吸障害のある子供たちの過去・現在・未来

ガイドラインがなく、

試行錯誤で行われてきた時代  
対象は限定的かつ対処療法的

～新しいステージへ～

☆病院から在宅を**紡ぐセラピー**

☆QOL改善を目指した

**包括的呼吸ケアへの進化**

過去

現在

未来

医学の進歩で呼吸障害のある子供たちが激増

(**10年で10倍**の在宅人工呼吸器管理数)

ガイドライン等に沿ってデータが蓄積されていく時代

## 参考文献

### ■ 国内ガイドライン

- ① 日本リハビリテーション医学会：神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハビリテーションガイドライン
- ② 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン      ③ 日本呼吸器学会：NPPVガイドライン
- ④ 日本神経学会：デュシェンヌ型筋ジストロフィー診療ガイドライン
- ⑤ 日本呼吸療法医学会：小児在宅人工呼吸療法マニュアル

### ■ 国外ガイドライン

- ① 米国呼吸ケア学会の気道クリアランスガイドライン
- ② 英国呼吸器学会ガイドライン：筋力低下のある小児の呼吸マネジメント
- ③ カナダ呼吸器学会：小児在宅人工呼吸ガイドライン
- ④ 神経筋疾患における気道クリアランスについての国際会議